

令和7年3月5日

令和6年度とうきょうすくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	千代田区立昌平幼稚園
所在地	千代田区外神田3-4-7

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園の園庭は、旧職員が地域の方々とともに作った田んぼ、ビオトープの池、畑があり、都心にありながらも栽培活動や水生の生き物との触れ合いなどの豊かな体験活動ができる環境である。これらの既存の環境を活かし、幼児が田んぼ・池・畑に関連する様々な対象物と十分に関わり、好奇心や探求心を満足させることができるようにしていきたい。

2. 活動スケジュール

【稲作（5歳児）】…5月に田植えをして、その後は秋の稲刈りまで観察や世話をする。冬季は田んぼの土の手入れを行う。

【ビオトープ（池・植栽等）】…メダカ、ドジョウ等の生き物の観察をしたり、捕まえたりして関わる。年間を通して観察することで、季節ごとの池の様子の変化を知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ウッドフェンス…観察する空間を他の遊び場と仕切るため

木製ベンチテーブルセット…観察・探求を落ち着いてすることができる場を設けるため

戸外用パネル…田起こしを安全な環境で行えるようにするため

デジタルカメラ…観察・記録に使用するため（幼児用・保育者用）

ルーペ、試料カップ、透明バケツ、図鑑等…幼児が対象物を観察したり調べたりできるようにするため

ネット、支柱、プランター、肥料等…稲作・栽培活動の充実を図るため

ビオトープ用植物（サジモダカ、ヒメガマ、サンカクイ、チガヤ等）、ココナツマット等…池の環境整備

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

【稲作】

・稲の生長を確かめたいという幼児の声から、目印を付けた支柱を設置した。このことにより、園庭に出た際にどのくらい稲が伸びているかを確かめることを楽しみにし、継続的な観察が促された。

・田んぼの中に見たことのない虫があり、稲に害があるのではないかと心配した幼児が幼虫を取り除いていた。幼児から「どんな虫なのかを調べてみよう」という意見が出て、保育者と一緒にタブレット端末等を使ってその虫について調べたところ、ハナアブの幼虫であることが分かった。稲に直接は害がないことや、成虫になると花粉を受粉させる働きをすることが分かり、駆除を止めることとした。

【ビオトープ】

・春～夏にかけて、メダカをすくって観察しては池に戻すという遊びを楽しんだ。寒くなってくるとメダカが見られなくなり、どこにいるのか心配する姿や池の中を丹念に探す姿が見られた。死んでしまったのではないかと、暖かくなるとまた出てくるのではないかなどの予想を立てており、引き続き観察を続けているところである。

・絵本に登場したバッタを製作で作っていた4歳児が、「バッタを見たことが無いからどんなふう羽根が付いているのか分からない」と話したことをきっかけに、庭には何でバッタがいないのだろうという話題になる。保育者が、バッタが暮らしている環境や好きな植物などについて知らせたところ、園庭にもバッタが暮らせる場所や虫が集まる場所を作れば良いという意見が出てきた。保育者が調べて、枝を積み重ねて虫が集まる場所を作る「ソダ積み」や、土を掘り起こして雑草を生やすことなど、園庭でできそうな取組を知らせたところ、幼児たちも関心をもち、今後やってみようということになっている。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

【稲作】

・支柱があることで幼児がその場所に集い、一緒に観察をする姿が見られた。同じ場所に集うことで、気付いたことを伝え合ったり、役割を分担しながら長さを図ったり（稲を押さえる子、支柱を支える子、長さを確かめる子など）する姿が見られた。

・幼虫の正体が分かったときは、「（受粉を手伝うってことは）いい虫ってこと？」「悪い虫かと思った」「いい虫なら取らなくてもいいんじゃない」など、生き物（虫）と植物（稲や野菜）との関連から気付いたことや考えたことを話す姿が見られた。

【ビオトープ】

・四季を通して池の様子を観察する中で、季節によってメダカの暮らし方が変わるのではないかと予想して、気付いたことや考えたことを言葉に表していた。

・バッタなどいろいろな生き物がくる園庭にしたいという思いを幼児が保育者に伝え、そのことを保育者が受け止めて考えたり提案したりするという幼児と保育者のやり取りを経て、園庭の環境を自分たちで作っていくことへの意欲や期待が幼児の中に育まれていった。

<活動の様子>

活動の様子が分かる写真を 2 枚以上貼付してください。

(HP などでも公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

幼児自身の思いや願いを土台として探究を展開していく上では、

- ・対象物に関わる時間を確保すること
 - ・対象物と継続的に関わることができるような環境を構成すること
 - ・幼児の知りたい気持ちややりたい意欲に応じていくために、保育者が一緒に調べたり保育者が知っている情報を提供したりすることが効果的であること
- などが大切であることを学んだ。

以上